

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊中学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全教師がラーニングマウンテンを活用し、授業公開を行ったことで意欲的に授業に取り組み生徒が増えた一方で家庭学習の時間が減少している生徒がみられた。 毎日、「じぶんログ」の中に生活面の質問があり、何気ない回答にも教師が気にかけて声掛けをした。 タブレット端末の更なる活用について、タイピング技能を身につけた生徒は75%で苦手意識を持っている生徒が全体の25%いた。 地域活動・ボランティア活動においては、70.2%と主体的に募金を行うなど積極的に活動した。
------------------	---

2 学校教育目標	感謝・自立・挑戦
----------	----------

3 本年度の重点目標	<p>1. 生徒が「湊中」でよかった。(母校への誇り、充実した学校生活、進路保障)</p> <p>2. 保護者・地域が「湊中」に通わせてよかった。(生き生きとした子どもの姿、進路先確保)</p> <p>3. 教職員が「湊中」に勤めてよかった。(風通しの良い職場環境、職能向上)</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的に学習に取り組む生徒の育成 ○家庭学習の充実	○ラーニングマウンテンを活用して単元の見直しと振り返りを全教員(100%)実施する。 ○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合を70%以上	・校内研究の取組を実施し、全教師が授業公開をする。 ・発達段階や能力に応じた学習内容に取り組みせたり、家庭学習の習慣化を図るための手立てを工夫する。							学力向上C(草場) 校内研修(草場)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒は81%以上であった。	・各学年担当で、年間計画に沿って道徳の授業を実施する。 ・道徳に関するアンケートの実施 ・生徒全員が人権作文に取り組む。							道徳教育推進(井邊) 人権・同和教育(山田)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義・いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応をしていく。	・月末に全校生徒に「生活アンケート」を行い、生徒の学校生活を把握する。							生徒指導主事(井邊)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・諸行事等で活躍の場を増やし、「じぶんログ」のコメントや学級通信で紹介したりし、自己肯定感を高めさせる。 ・高校説明会や職業講話、職業体験、日常の進路指導等を通して、生徒の進路意識を高める。							進路指導主事(江川)
○(学校独自重点取組・任意)	○									
●健康・体づくり	④「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	④「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・9割以上が「朝食を食べている」と回答している。 ・家庭科の授業や給食時間を活用した食に関する指導を行う。 ・6月に「交通安全教室」を実施したり、自転車点検、特にブレーキ点検や通学路に関するアンケートで不備な場所があると関係機関に連絡して対応している。							生徒指導主事(井邊) 食育(木谷) 給食(小宮)
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。 ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員を割合を75%以上にする。 ○部活動の複数顧問により負担が軽減されていると回答した教員80%以上 ○長期休業中を中心に、年間8日以上を年休を取得した職員が80%以上	時間外在校等時間の上限を遵守するために、ICTを活用しデータの共有、前年度踏襲を見直し、誰が担当になっても適切・かつ迅速に対応できるよう校務分掌の見直しを行う。 ・定時退勤日・部活動休養日を徹底する。 ・部活動の複数顧問により、指導の負担を軽減する。 ・管理職が年休取得を推進するとともに、声かけを行う。							教頭(大庭)
	○会議・研修の精選	○ICTを活用し職員会議・校内研修の内容の充実と時間をこれまでかかっていた時間から5分短縮する。	・年度当初に、職員の共通理解と共通実践を確認し、伝達内容の重複を避ける。							教頭(大庭) 教務(山田)
●特別支援教育の充実	○個々の生徒の障害の状態等に応じた授業内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行う。全職員への周知徹底。	○生徒理解に係る、生徒の実態と支援の手立てについてのケース会議を学期に1回以上。(生徒指導との連携)	・関係機関との連絡調整。 ・スクールカウンセラーの活用。 ・職員研修の実施。							特別支援教育C(木谷)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○主体的に活動できる生徒の育成	○各専門部の充実と地域や社会貢献活動への参加	○地域や社会貢献を通して、自己有用感や達成感を得られた生徒80%以上 ◎各委員会や体験活動の充実させ、肯定的な回答をした保護者80%以上	・生徒会活動やボランティア活動、地域活動への積極的に参加するような呼びかけや活動の工夫をする。 ・小中連携をとり、行事活動を通して自己肯定感を高める。							生徒会(吉野)
○個別最適な学び	○ICT利活用	○校内タイピング検定合格者50%以上	・毎週月曜日の朝の時間タイピング練習を行い、年に数回の検定試験日を設定する。 ・教師は教科の単元の中でICTを用いた							情報教育(原)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	